

7月1日は「AEDの日」

-市民によるAEDへの、より深い理解と普及を目指して-

(2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けた財団全国AEDマップの取り組みについて)

平成16年7月1日にAED(「自動体外式除細動器」)の市民使用が認められたことから、7月1日を「AEDの日」として、AEDを中心とした救急蘇生の普及啓発を推進するとともに、命の大切さを再認識して頂く全国的な市民運動を呼びかけています。

「AEDの日」を中心に進めて頂きたい活動を提案しています。



第一に、財団全国AEDマップに登録されたAED設置情報の信頼度を高めること

AED設置者がマップへの登録を更新して「最新情報であり、信頼度の高い」ことを示す青色ピンに表示変更をして頂くことを強く期待しています。

AED設置情報は、ランク付けをして精度A(青色のピン)、精度B(黄色のピン)、精度C(赤色のピン)、精度D(灰色のピン)の4区分表示をしています。全ての設置情報が精度Aの青色ピンになるよう、AED設置者の皆様には再登録をお願い致します。



第二に、財団全国AEDマップに掲載されているAEDが、掲載情報の通りに設置されているか、現場に足を運んで確認すること

「街のAED探検隊」を地域の各種団体、青少年のクラブなどで組織して頂き、市民の皆様の身近に設置されているAEDがいつでも確実に使える状態であることを確認して下さい。この作業には、「AEDの日」の平成29年7月にダウンロードを開始したスマートフォンアプリ「QQ・MAP(iPhone版)」が役立ちます。

AEDの使用者となりえる市民の皆様が、身近なAEDの設置場所を覚えておくと、緊急時に迅速に使用できます。また、精度の高い設置情報があれば119番通報時に消防救急から通報者に直近のAEDを教えることができ、心停止傷病者の救命率向上に役立ちます。

「QQ・MAP」は、財団全国AEDマップと連動して作動しており、緊急時に活用することで人命救助に役立ち、安全で安心な「まちづくり」の一助になると確信しています。



第三に、AEDの使用法を含めた心肺蘇生、応急手当をさらに普及すること

心肺蘇生、応急手当の講習会や講演会、勉強会などを主催される皆様には、「AEDの日」を中心に、きめ細かく開

催されることを期待しています。既に、多くの講習会が開催されていますが、まだまだ受講者数は十分ではなく、受講後数年が経過して改めて受講されたい市民も多数です。講習会はいくら開催されても多すぎることはありません。



第四に、2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けた財団全国AEDマップの取り組みについて

2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けて、既に無料ダウンロードで提供しているスマートフォンアプリ「QQ・MAP (iPhone 版)」に続き、スマートフォンアプリ「QQ・MAP (Android 版)」を作成する予定です。また、オリンピック期間中は、多言語(英語、中国語、韓国語など)対応を有する機能とする予定です。

財団全国AEDマップは、平成27年6月30日の運用開始から4年が経過しました。この間にAED設置情報の表示方法の改善、登録書の改善、登録方法の改善、地方自治体(都道府県等)への登録情報の提供などを実施してまいりました。

このマップが、さらに優れた機能を持つ情報発信システムに発展し、AED設置情報を提供してより多くの心停止傷病者の救命に寄与できることを願っています。

最後となりますが、AED設置情報システムの安定的な運営ため、皆様からの寄付によるご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

令和元年7月1日

一般財団法人 日本救急医療財団
AED普及・啓発検討委員会
委員長 丸川 征四郎